

平成23年度 第1回鳥取市総合企画委員会（議事概要）

- 日 時 平成24年2月21日（火）14時00分～16時00分
- 場 所 鳥取市役所本庁舎6階 全員協議会室
- 出席委員 尾崎直美、佐々木紀久子、佐々木ちゑ子、沢田陽子、福山裕正、藤縄匡伸、藤沼康実、細井和江、道上正規、森本坦子、渡邊勘治郎（11名）（五十音順、敬称略）
- 欠席委員 井上 学、谷口節次、福島 明、森原昌人（4名）（五十音順、敬称略）
- 鳥 取 市 市長、副市長ほか各部長（監・局長）、行財政改革課（事務局）

1 開会（行財政改革課 田中次長）

ただ今から、平成23年度 第1回鳥取市総合企画委員会を始めます。開会にあたり、竹内市長がご挨拶申し上げます。

2 市長あいさつ（竹内市長）

- ・ご多忙中にも関わらず本委員会にご出席いただきありがとうございます。また、就任依頼へご快諾いただきお礼申し上げます。
- ・この委員会は、鳥取市総合計画の策定期間においては、策定の取組み、そして策定後の時期は進捗管理を大きなテーマとしています。あわせて、その時々的重要なテーマについてご報告をし、ご意見をいただくといったことをこの委員会の主たる任務としています。
- ・本日は、第9次鳥取市総合計画の進捗状況もありますが、その前段に平成22年度からスタートした4年間の第3期マニフェストが2年間を経過し、折り返し点を向かえたということがありまして、就任当初のマニフェストをもう一度、見直しをしようと考えています。これは、基本的な骨格を変えるものではありませんが、事業の進捗の度合い、あるいはその後の2年間の経過の中で新たな事業を加える、あるいは既にかかなりの程度、進捗が進んだため、新たな目標を設定して新たなマニフェストとしていわば改訂版を出していこうという取組を今、進めているところで、それに関して概略ではありますが、基本的な考え方などをご説明させていただこうと思います。これについても、この総合企画委員会でご意見を頂戴できれば大変ありがたいと思っています。
- ・その他は、平成24年度の予算の発表資料、この4月から環境大学が公立大学としてスタートを切るといったことも資料を用意させていただいています。こうしたことも多少、触れさせていただきたいと考えています。
- ・以上、市政の課題がたくさんある中で、総合計画に基づき取組を進めた平成23年度を振り返るとともに、先ほど触れたマニフェストのいわば改訂を進めていることに関しまして、ご審議をいただきたいと考えています。

・本日は、こうした雪の残る中で委員の皆さまにお越しいただき感謝申し上げ、冒頭のあいさつとさせていただきます。

3 委員長・副委員長の選出（行財政改革課 田中次長）

ありがとうございました。それでは今回が改選後、初めての委員会ということであり、新たに委員にご就任いただいた方もございます。改めてご紹介をさせていただきますので、名簿はお付けしてありますが50音順でお名前を読み上げますので、その場でご起立をお願いします。

尾崎 直美 様
佐々木紀久子 様
佐々木ちゑ子 様
沢田 陽子 様
福山 裕正 様
藤縄 匡伸 様
藤沼 康実 様
細井 和江 様
道上 正規 様
森本 坦子 様
渡邊 勤治郎 様

また、井上 学 委員、谷口 節次 委員、福島 明 委員、森原 昌人 委員は、本日所用のため欠席の連絡をいただいています。

以上の紹介を持ちまして、辞令書の交付に代えさせていただきます。辞令書は、皆さまの席の封筒にございますので、ご確認ください。

続いて委員長・副委員長の選出に移ります。鳥取市総合企画委員会条例第4条には、委員会に委員の互選により選出した委員長1人及び副委員長1人を置くとあります。実は委員長・副委員長の選出に関しまして、事務局から提案させていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(委員より) 異議なし

ご異議がないようですので、事務局案としまして、
委員長に道上 正規 委員 様、
副委員長に渡邊 勘治郎 委員 様
をお願いしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

(委員より) 拍手多数

では、委員長 道上 正規 委員
副委員長 渡邊 勘治郎 委員
をお願いいたします。

それでは委員長の道上委員は、委員長席へ移動をお願いできますでしょうか。
では、委員長よりごあいさつをお願いします。

4 委員長あいさつ (道上委員長)

- ・ただいまご紹介に預かりました道上正規でございます。委員長として、皆さんと一緒に議事を進めていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。
- ・この委員会の性格については、市長より説明をいただきましたが、我々の任務としては大きく2つあります。
- ・1つは平成23年度からスタートした第9次鳥取市総合計画について審議をして、その中身の達成度、数値目標を委員として審議して意見を述べることにあります。したがって、総合計画が初期の目標どおり順調にいくかどうかを皆さんと一緒に審議していきたいと考えています。これが一番大きい任務です。
- ・もう一つは市長からお話があったとおり、国会にマニフェストの話があるように、市長にもマニフェストがある。国会では、マニフェストに関する様々な議論がありますが、この総合計画については、市長さんのマニフェストが下敷きになって平成23年度からの総合計画にきちっと内容が盛り込まれています。マニフェストの方がどちらかというと、もうちょっと大括りになっているかと思いますが、それを受けて総合計画が出来上がっています。
- ・この鳥取市総合企画委員会によって皆さんといっしょに議論をいただき作成されている総合計画は、平成23年度からスタートしたため、まだ1年たっていません。総合計画の進捗状況というものは、実質、半年、9か月あたりであり、なかなかわかりにくいというのが本音ですね。本格的には平成24年度に入ってから本格的に議論いただくこととなります。あくまでも本年度は、今の段階でわかっていることに対して議論をいただくこととなります。
- ・もう一点の市長さんのマニフェストは、ほぼ2年たっているもので、こちらの議論してく

ださいということのようです。そこでマニフェストと総合計画の進捗状況について皆さんにご意見を伺いたいということで進めていきます。

○行財政改革課 田中次長

ありがとうございました。それでは早速、これから議事に入らせていただきます。この議事の進行については、委員長さんをお願いします。

5 議事

(1) 鳥取市総合企画委員会について

○事務局説明（行財政改革課 吉村参事）

資料1

○道上委員長

ご質問はないか。一件、市は審議の内容をどう活用されるのか。公表されるのか。

○行財政改革課 吉村参事

審議内容を含め、公表をさせていただきます。

○道上委員長

了解。他にご質問はないか。なければ、次に移る。

(2) 第3期マニフェスト進捗状況及び見直しの考え方

○事務局説明（企画調整課 国森課長）

資料2、2-1、2-2

○道上委員長

- ・皆さんと同じ認識に立たないと議論が難しいと思う。このため、もう一度、事務局にお伺いしたいと思うが、要するに竹内市長がマニフェストに書かれた内容の細かい事は資料2-2に書かれ、45事業。その柱が6つ。このため、45事業についての進捗状況は、2-2に書かれているということ。
- ・その45事業は、およそ2年経って、既に出来上がったものもあるし、比較的順調なものもある。さらに社会が変わり、新しい取組もある。例えば県と市で進めるマンガのサミット。あるいは東日本大震災があつて、世の中が変わってきている訳で、それに対応できるようにマニフェストも一部修正したり、追加していきたく考えている訳か。そういうことでよろしいか。
- ・そこで委員の皆さん、奇異に感じるかもわからないが、我々が市長のマニフェストに対して注文することもいいですよということのようだ。何故かというと、マニフェストと総合計画はかなり連動している。まったく一緒ではないが、かなり連動している。どこの市も同じかはわからないが、マニフェストを推進するために、かなり総合計画に当て

はめている。その総合計画は、平成23年度にスタートした。したがってマニフェストと総合計画は無関係ではなく、関係している。また、マニフェストは、平成22年度からと1年早く進んでいる。そこで委員の皆さんに出来上がっている部分を見ていただき、意見が欲しいということだ。

- ・資料2-2を見るのは大変。そこで事務局から出来のいいのと、進捗が思わしくないものを説明いただいてはどうか。

○竹内市長

- ・私の方から少しこのことについて触れさせていただいてもよろしいか。お手元にはマニフェストの冊子（資料2-2）があると思うが、マニフェストの全体の進捗状況ということで、資料2-1に基づき全体像を説明し、私なりに総括したい。繰り返しの部分もあるが、資料2-1から概要を基に全体像を示したい。これは、1年半の進捗状況を総括しており、全体45事業のうち、達成といえる事業が8事業、大部分が終了したものが21事業となっている。こうしたことから、1年半の達成度を総括して5割以上の達成度ということであると、87%ということはかなり達成され、達成度の高い事業が多くなっている。お陰さまでまずまず順調ということだ。このため、平成24年度以降の2年について、新たな目標が必要と考えているところ。
- ・達成度の高い8事業の内訳の例示としては、雇用の機会の創出がある。これは2,000人の雇用を創出するという目標に対して、1年半で2,200人くらい創出したことで100%以上の達成をしたということになる。その他にも、コミュニティデータ放送は、すでにCATVで行い、子どもの医療費助成の対象年齢拡大も中学校卒業まで拡大をしている。市立病院の小児科は再開している。健康・子育て推進局は設置した。山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟は実現した。砂像制作の全市への展開は大きく前進している。水質の浄化は途上であるが、湖山池の水質浄化の取組は大きく前進している。
- ・遅れている事業は、目標達成が初期段階の人材育成による各種施策や高い目標を掲げている鳥取方式による都市公園の芝生化がある。広葉樹の植樹は、都市緑化フェアがまだ開催されていないので、達成率は高くない状態。総合交通システムや湖山池に関わる水産資源の回復の部分は、まだ未達成。
- ・このように、それぞれの達成度の進捗率の違いがあるが、とにかく、既に達成されたものは、その次の目標を掲げた方がいいという立場に立ち、見直しの視点に掲げているところ。
- ・資料2の見直しの視点では、例示を含め確認いただきたい。（1）マニフェスト目標達成済事業の雇用創造目標の実績については、冊子2-2の1頁をご確認いただきたい。雇用創出は、4年間で2,000人に対して、上半期で2,202人。いずれにしても目標の2,000人を超えている状態。新しい目標は、現在議論している最中であるが、

- 4,000人とか5,000人とか新しい目標にすべきではないか。
- また、次のステップアップを図る事業としては、環境大学もあるが、市有建築物耐震診断・改修として32頁にあるのでご確認いただきたい。これについては、平成27年度までに特定建築物は100%それ以外は90%を目標に耐震化を進めている。この目標については、平成26年度末にはどれだけ完成するのか、また、このマニフェストは4年の期限のため、平成25年度末までにどれだけ進むのかといった事業の内容について、現在の進捗状況を踏まえながらも少し精査し、再設定を図りたいと考えている。ここで、例えば市庁舎について特定建築物の一つの例として掲げているが、例えば市庁舎は平成26年度末までにということを具体的な事業にあげていくことも考えている。いずれにしても、マニフェストの防災体制の充実強化ということで、災害に強い安全・安心なくらしを実現しますという最初に示したマニフェストの中の個別の事業の段階での見直しをもう少し精査し、入れていきたい。
 - 3番目のカテゴリーについては、施策目標達成のために新たに追加すべき事業ということだが、例えば鳥取力向上ということで平成23年度から取り組んでいるJ2昇格になったガイナレ効果があるが、これはマニフェストには上がっていない。マニフェストの大項目に「鳥取力を高めます」があるが、ガイナレ鳥取は含まれていないので、これを追加の事業として追加したいと考えている。同様にマンガを活かした文化振興に取り組んでいるが、どのカテゴリーに位置付けるかは、おそらく「鳥取力を高めます」の中で盛り込みたいが、新たな事業を具体的にマニフェストに位置付けた事業として加えたい。
 - 進捗度は、4年間で完成する中で、達成率を25%、50%、75%、100%の刻みで考えた方が4年間で進めているのでふさわしいと考えている。1年目で25%でも普通に進捗しているといえるわけですが、要するに幅が変則的だったものを均一化したいと考えている。星マークで表すことを考えていこうということで、表記、プレゼンテーションの仕様を変えようというのが、今回の進捗状況の表示の見直しの提案である。

○道上委員長

- 委員の皆さん、ご理解いただけただけでしょうか。マニフェストでかなり進捗率が高いもの、概ね順調なもの、あるいはマニフェストに書いていなかったけど、市の施策としてガイナレ効果による鳥取力の向上を推進したい、応援したいといったことが書いてなかったというもの、マンガなどもそうでしょう。世の中が変わってくるので、マニフェストに書いてあることを当然、しなければならないということではない。また、一歩も出たらいけないということもない。本質的な議論として、新たな事象が起こったとき、どう対応するか、市長さんがどう考えて対応するのか、それによってどういう効果がでてきたかということが本当は我々にとって教えていただきたいことだ。
- そこでマニフェストの全体は今の説明で理解したが、この中で1、2、進捗率が低いものを説明いただきたい。良い方ばかりだと偏るので、悪い方を教えていただけませんか。

例えば、29頁には、達成率の低いものとして、「地域交通・防災システムの充実を図ります」に位置付けられている、新しい公共交通システムの構築が掲げられているが、2年間で平均50%進んでほしいと思う一方、達成率20%。そこが何故、達成できていないかを教えていただきたい。

○都市企画課 山本課長補佐

新しい公共交通システムの構築の達成率は確かに低い。これは、平成24年10月から試験的に行う予定であり、現在は、その諸準備を行っている段階にある。このため、まだ達成度は低い状態である。

○道上委員長

事業の準備期間ということで理解した。来年度を楽しみにしてくれということ。せっかく市長も同席されており、他、ご質問はないか。

○竹内市長

マニフェストについて、お気づきの点や疑問点があれば、お願いしたい。実は私はマニフェスト関連の項目をもって失礼しなければならないため、是非、マニフェストについてご意見があればこの場で直接お聞かせ願いたい。

○藤沼委員

- ・3番目に新たな中山間地域振興を推進しますということが掲げられている。中山間地域は、限界集落といわれるように過疎化し、また交通網の充実もなかなかできないということで、最大のピンチだと思う。そのあたりの取組みを強化すべきではないかと思う。
- ・過疎化に関して、里山。この柱で示すと3番に当たるのか。里山とは書いてないが、広葉樹を進めることが書かれている。里山の衰退はすごい。典型例は竹林の増加、ナラ枯れの増加といったこと。里山の管理ができていないことの表れだと感じている。このため、中山間地域の振興と考えた場合、それを実際にどのように取組むのかということがあまり見えてこない。具体的な事も表明してもよろしいのではないかと思う。

○道上委員長

このことについて、市長から何かありますか。

○市長

せっかく、各担当に頑張ってもらっていますので。

○道上委員長

それでは各担当の方をお願いします。

○企画推進部 松下部長

報道でも扱っていただいているが、気高の生姜とかいろいろな地域の特産物を活用した地域おこしに取組み、元気な地域活性化策が進んでいることは間違いない。佐治、用瀬、河原、国府など、それぞれの地域で独自の取組が進んでいる。先ほどの新しい交通体系については、南部地域で検討を進めているが、交通弱者に対しても支援策を進めることとしている。こうした取組を進めるためには、リーダーの養成が一番重要と考えている。

市長が塾長を務める「ふるさと元気塾」という研修によりリーダー養成を行い、多くの中山間地域から塾生を迎え、来年度に向けても力強く推進し、多くのリーダーを育て、中山間地域が連携できる仕組みづくりを進めている。こうした取組により、元気を取り戻すことが一番重要。中山間地域振興の一つであるグリーン・ツーリズムについても、表現を工夫して理解を促進しながら効果が生まれるよう取組む予定である。

○農林水産部 井上次長

- ・里山の関係について、実態としては、荒れている里山の改善を図るため、広葉樹の植栽、特にクヌギ、コナラといったシイタケの原木になる植樹を促進するために、国・県の補助をあわせ10割の補助制度を設けて進めるように制度化している。若干、PR不足もあるため、PRを充実し、進めたい。
- ・竹林の整備は、森林環境保全税を活用した事業が県であり、大変人気が高く、鳥取市への配分が中々まわってこない状況があり、取組が少なくなっている。配布のレジュメでは、1ha未満だが、現在は7ha程度実績が上がっている。これも着実に進めていきたい。
- ・ナラ枯れについては、松くい虫による松枯れがあるが、重点地区を設けて防除を行っているものの、終息はしていない状況にある。また、場所は奥山であり、防除を実施することは困難を伴っている。そこで現在、鳥取市内の防除としては、県と協力して、青谷町と湯梨浜町の境界を重点的に防除している。あわせて自然環境保全地域に指定した地区、あるいは重要な神社の森などを重点的に防除している。このように、市内全体の対応は困難であることをご理解いただきたいが、造林事業をする中で改善したい。

○道上委員長

- ・説明いただいたが、マニフェストの数値目標に対しての説明が不明確。本委員会は、数値目標のチェックをすることが役割。数値目標を見ながら、その理由や内訳を説明いただかないと、チェックできない。おそらく総合計画に盛り込んであると思うが、マニフェストのどこにあって、その内訳はこうだという説明が必要だ。これがなければ、この委員会は機能し難い。

○竹内市長

- ・マニフェストに関して具体的な課題をご指摘いただいた。是非、見直しの中で数値目標についても掲げながら、中山間地域対策、また、里山対策等について今、お話のあった藤沼委員からの件も含め、具体の事業について委員長からご指摘のように数値目標で達成率が明確に判断できるよう位置付けていきたいと思う。
- ・マニフェストは、現時点が前半と後半の折り返し地点という時期にあり、ここでしっかり内部でも検討させていただき、マニフェストとして適切なものになりたい。また、その進捗度についても公表をして、しっかりとこの総合企画委員会にもお伝えしていきたいので、よろしくお願ひしたい。それでは、私はここで失礼いたします。

○道上委員長

マニフェストについては、以上としたい。

(3) 第9次鳥取市総合計画の進行管理について

○事務局説明（行財政改革課 吉村参事）

資料3-1

○道上委員長

ただ今、総合計画の数値目標の達成状況の説明をいただいた。他にも大変ボリュームがある資料4があるようだが、こちらの説明は必要か。ただし、委員の皆さんが内容を理解することがまず重要である。資料3-1の説明がいわゆる総合計画の中の施策の進捗状況であり、74項目。これで全てか。

○参事

資料4については、次に説明を予定している。また、74項目は、施策レベルとして数値目標が設定されているものの全てである。

(不登校生徒の出現率)

○道上委員長

では、これ以上の細かい説明はいったん抜きにして、皆さんに議論いただいてはどうか。それでは、資料3-1についてチェックを入れるため、ご質問いただきたい。まず私から一つ、3頁のNo.8中学校における不登校生徒の出現率について、これはいい数値となって112.4%の達成率となっているが、何故これがうまくいっているのか簡単で結構なので説明いただきたい。

○教育総務課 江本課長

学校教育課の所管のため、詳しくは承知しかねるが、学校教育課は、様々な事業を組んで実施している。その一つひとつの積み重ねの成果。特定の事業が直接的な効果を与えている訳ではないため、これはという決め手の事業を単に明確にすることはできない。

○道上委員長

了解。このように数値目標の特徴を捉えながら、ご自身の感覚と合致したり、異なっている状況を踏まえ議論をしたい。

(ガイナール鳥取)

○行財政改革課 吉村参事

委員長、事前に意見・質問を委員からお聞きしている。その説明を行いたい。

事前意見書（ガイナール鳥取について）

○道上委員長

佐々木委員さん、市の説明で理解できたか。

○佐々木（ち）委員

経済の景気が悪い中で、ガイナレの選手に対して使われているのかと思ったので質問した。それとは関係がないことがわかった。

○道上委員長

経済の景気が悪い時だからこそ、財政投入して経済を大きくする、経済を活性化するという手法。様々な手法はあると思うが、そういう観点から取組まれている。個人にお金をあげるというものではない。

○尾崎委員

ガイナレという言葉は、米子の言葉ではないか。もっと鳥取に馴染む言葉を使用することはできないか。

○企画推進部 松下部長

ガイナレ鳥取は、SC鳥取のチームの名称である。このチームは、鳥取市をホームタウンとして、バードスタジアムを主会場として戦うため、主に鳥取で経済効果を生んでいるチームであるが、このチーム名により県も各市町村も県全体で応援しているチーム名であることをご理解いただきたい。

(主な文化・文化財施設への入込数)

○尾崎委員

・3頁No.14「主な文化財施設への入込数」について、108.9%といういい数字であるが、国府町の万葉歴史館は、いつ行っても人がこんなに少なくないのかと心配する思いもあるため、他館が相当頑張っていると感じている。このため、施設ごとの実数をお知らせ願う。これは、リニューアルして勢いあるわらべ館を含むNo.12主な文化施設への入込数が92.7%のためでもある。

○教育総務課 江本課長

鳥取市歴史博物館などは、かなり入館者があるように聞いているが、内訳は追って資料提供する。[別紙 追加資料]

(ビジットとっとり)

○藤沼委員

・10頁のビジットと通りの展開であるが、観光入込客数やコンベンション誘致数といった数値目標があるが、あわせて今後は経済効果といったことも検討してはどうか。
・県外などへ行くときに鳥取のお土産を買いたいと思うことがあるが、米子産などが多く、鳥取、県東部のお菓子の類は少ない。このため、鳥取の県東部の新しいものを作りだすといった動きはないのか。

○経済観光部 杉本部長

- ・入込客に関わる経済効果については、今後、検討したい。
- ・新商品の開発は、観光産業の事業者が新しい商品開発をする場合の補助制度を設け、取組を促進している。兎年には、白兎のロールケーキ、落雁を作っていただいた。また、白兎海岸は、恋人の聖地に認定され、「結び石」などのグッズの人气が結構出ている。こういった事例もあり、次回、紹介を検討させていただきたい。

○道上委員長

鳥取も、頑張っているということ。

○経済観光部 杉本部長

企業誘致も進める中で環境大学の前にお菓子メーカーの株式会社円山菓寮さんが企業進出された。かりんとうが有名で、東京でも出展されているメーカー。その社長さんと話をする中では、ご当地ブランドのお菓子も作っていただくような話も進めている。株式会社不二家システムセンターも企業進出いただいたが、不二家のグループでケーキやお菓子が製造される中、ご当地グルメ・ブランドを創ることも進めている。おいしいお菓子を鳥取から多く出していきたい。

○道上委員長

ご当地グルメ・ブランド開発には、ぜひ、女性の委員さんも参加できるようにしていただきたい。では、その他の質問はないようですので、これまでの意見を踏まえ、事務局は進めていただきたい。続いては報告事項についてお願いしたい。

(4) 報告事項

①新生鳥取環境大学

○資料説明（鳥取環境大学改革推進室 浜野室長）

②エンジン01文化戦略会議オープンカレッジ in 鳥取

○資料説明（文化芸術推進課 西村課長）

③世界初の砂の美術館

○資料説明（経済観光部 杉本部長）

(5) 自由討議

○道上委員長

- ・最後になるが、ご意見を伺う時間とする。鳥取市のまちに対してご意見があればお願いしたい。
- ・例えば世の中が変わり目になりつつある。東日本大震災以降、我が国には閉塞感が満ち溢れている状況にあるが、一方では助け合いの精神、絆の精神が発揮され、日本も捨てたものでもない。国難を乗り越えつつあり、希望も感じている。この総合計画についてはもとより、そうした変わり目の話も含めご意見をいただきたい。

(若桜街道)

○森本委員

今、若桜街道の活気について非常にさみしく感じている。老舗のシャッターが下りている。ドーナツ現象でしょうか、郊外に人の流れが移っている。若桜街道商店街の駐車場に係るサービスを検討いただき、コンパクトな鳥取のまちづくりを進めることはできないか。

○道上委員長

市の方では駐車場の取組などもしているのではないか。

○佐々木(紀)委員

ここに来るまで歩いてきたが、確かにシャッターが下りてさみしい。

○道上委員長

中心商店街の活性化を示す指数はないか。

○行財政改革課 吉村参事

歩行者通行量の指標を設定しており、達成している。

○道上委員長

数値目標を達成していても、皆さんの印象と乖離が生じている。目標設定が甘いとそうなり、高いと異なる。そのあたり非常に難しい。

○福山委員

- ・人口は減っているところに北イオンが郊外に立地している。駅前の商店街が静かになることはやむを得ないのではないか。非常に難しいと思っている。
- ・鳥取自動車道の開通により2時間半で大阪につながった。関西広域連合というつながりもできている。人を呼び込むことがしやすくなった。もっと鳥取市から関西へ発信が必要。

○道上委員長

様々なご意見いただいた。意見交換は限られた時間となったがご了承いただきたい。

(6) 閉会 (行財政改革課 田中次長)

ありがとうございました。これにより委員会を終了します。